

乙 第 号

谷 満 学位請求論文

# 審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

報告番号	乙第	号	氏名	谷	満
論文審査担当者	委員長		教授	岸本	年史
	委員		教授	斎藤	能彦
	委員		教授	藤本	清秀
	(指導教員)				

### 主論文

Guidance on water intake effectively improves urinary frequency in patients with nocturia

飲水指導は夜間頻尿患者の頻尿症状を有効に改善する

Mitsuru Tani, Akihide Hirayama, Kazumasa Torimoto,

Chie Matsushita, Atsushi Yamada, Kiyohide Fujimoto

International Journal of Urology

第21巻 6号 595-600頁

2014年6月 発行

## 論文審査の要旨

夜間頻尿は、飲水過多による体水分量増加が抗利尿ホルモンの夜間分泌低下を招き、夜間多尿が原因となることが多く、飲水制限が推奨されている。しかし、飲水制限をどのように指導すべきかは報告されていない。本研究では、24 時間尿量/体重 $\leq 30$ (mL/kg)に設定することが夜間頻尿改善の目安であることを報告し、24 時間尿量/体重 $> 30$ (mL/kg)の夜間頻尿症例に対して、飲水指導をすることによる夜間頻尿の改善効果ならびに安全性について検討した。夜間多尿による夜間頻尿を有する 65 例を対象に、24 時間尿量/体重 $\leq 30$ (mL/kg)になるように飲水指導(体重の 2~2.5%の飲水)を行い、1 か月後に排尿記録、血圧、血液・生化学所見、尿中アルギニンバズプレッシン濃度(uAVP)、血漿および尿浸透圧を測定し治療前と比較した。24 時間排尿量、24 時間排尿量/体重、夜間排尿回数、夜間排尿量、24 時間飲水量、昼間飲水量および夜間飲水量は有意に減少した。夜間排尿回数は 44 例(67%)で改善し、夜間排尿量と昼間飲水量は正の相関を示した。また、血漿浸透圧、血清 Na 値、体重は指導前後で差がみられなかった。多変量解析では 24 時間排尿量および昼間飲水量の変化量が、指導効果の独立した影響因子であった。飲水指導は有効かつ安全な life style therapy で、飲水制限は日中を通じて行うことが重要である。本研究は、患者の生活の質(QOL) にかかわる夜間多尿による夜間頻尿における適正な飲水指導の有用性を明らかにした臨床的意義の大きい研究と評価され、博士の学位に値するものである。

## 参 考 論 文

1. Increase in 24-hr urine production/weight causes nocturnal polyuria due to impaired function of antidiuretic hormone in elderly men  
Mitsuru Tani, Akihide Hirayama, Kiyohide Fujimoto,  
Kazumasa Torimoto, Tatsuya Akiyama, Yoshihiko Hirao  
International Journal of Urology 15: 151-155, 2008.
2. Prediction of postoperative renal function by preoperative serum creatinine level and three-dimensional diagnostic image reconstruction in patients with renal cell carcinoma  
Tanaka N, Fujimoto K, Tani M, Yoshii M, Yoshida K, Hirao Y, Ozono S.  
Urology 64: 904-908, 2004.
3. TUR-P により前立腺肥大症と診断された後に発生した前立腺癌の検討  
田中洋造、青山秀雄、百瀬 均、小野隆征、三馬省二、田中宣道、  
明山達哉、谷 善啓、増田安政、松木 尚、谷 満、田中雅博。  
泌尿器科紀要 47: 11-14, 2001.
4. 腎細胞癌症例の長期 follow up における問題点  
谷 満、大園誠一郎、高島健次、田中雅博、太田匡彦、永吉純一、  
吉川元祥、平尾佳彦、岡島英五郎。  
日本泌尿器科学会雑誌 91: 469-472, 2000.

5. I-PSS を用いた前立腺肥大症の評価における加齢の影響

岡島英二郎、大園誠一郎、岩井哲郎、太田匡彦、田中雅博、谷 満、  
平尾佳彦、岡島英五郎。

西日本泌尿器科 59: 181-184, 1997.

6. 前立腺肥大症の治療効果と重症度の評価における International Prostate  
Symptom Score の検討

岡島英二郎、大園誠一郎、太田匡彦、田中雅博、谷 満、平尾佳彦、  
岡島英五郎

日本泌尿器科学会雑誌 86: 1466-1474,1995.

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに泌尿器科学/排尿機能領域の進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 26 年 11 月 11 日

学位審査委員長

精神医学行動神経科学

教 授 岸本 年史

学位審査委員

循環器・腎臓病態制御医学

教 授 斎藤 能彦

学位審査委員（指導教員）

泌尿器機能制御医学

教 授 藤本 清秀